



アケビ科
アケビ属

掌状複葉・互生



別名
英名
用途
分布

アケビ
Akebia quinata
ウルチアケビ、アケビカズラ、アケビヅル、アケブ、ヤマヒメ
Chocolate Vine、Five-Leaf Akebia
植栽(庭木、鉢植)、食用(果実、若芽)、薬用(茎)、細工材、生け花材
本州・四国

開け実、木通、通草

落葉中木

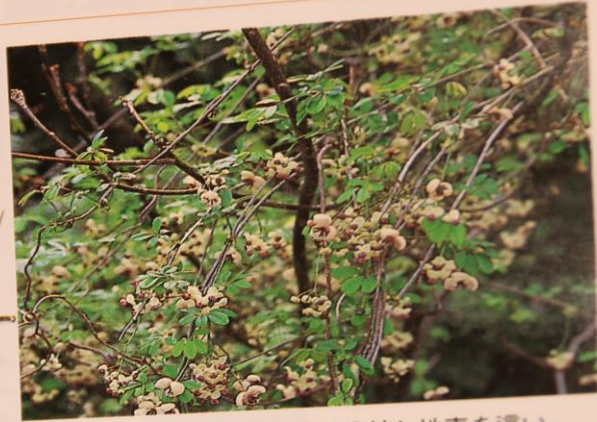
在来

広葉樹(ツル性)

落葉・互生

明るい林内や林縁などで普通に見られるツル性落葉樹。朝鮮半島から中国にかけて分布。ツルは長く伸び、太いもので径1.5cmになる。ミツバアケビ [P.52] と対し、5枚の小葉からなる掌状複葉が特徴。果実が熟すと美しく美しい。[開け実] と名付けられた。果皮は食用になる。

ミツバアケビと共に、乾燥させた茎は生薬名「木通」。漢方で消炎・利尿剤に用いられる。ツルは強靱で、花籠など細工物に利用される。古くは無病息災の果物として朝廷に献上されたという。



① 茎はよく分枝し地表を這い、樹木などに巻き付いて上り、長さ5mにもなる



4~5月、新芽が出るころに淡紫色の花が垂れ下がって咲く。花には花弁はなく、椀状にへこんだ3個の萼が花弁に見える。同一株に雄花と雌花がつくが、近くに他の株がないと結実しない

② 雄花 径1~1.6cm



③ 雌花 径2.5~3cm



④ 葉は互生し、5枚の小葉からなる掌状複葉。小葉は長さ3~6cm、幅1~2cm。両面とも無毛で鋸歯がなく、先端部はわずかに窪む

⑤ 果実は紫色を帯びた長さ5~10cm、径3~4cmの長卵形。10月ごろに熟し、縦に裂開する。白色半透明の果肉には独特の甘味がある



果期
秋

花期
春

メモ 昔は山里の子供たちの大切なお菓子代わりだった。類似種のゴヨウアケビ(五葉開け実、*Akebia x pentaphylla*)は、アケビとミツバアケビの雑種と考えられる。5小葉だが、ミツバアケビに似て葉縁に波状の鋸歯(きょし)がある。若いアケビの葉にも波状鋸歯が出る場合があり紛らわしい。花こぼし「才能」 季語「花が春」<実が秋>

俳句 つゆじもに冷えてはぬるむ通草(あけび) かな 芝 不器男